

ホオノキ (学名 : *Magnolia obovata* Thunb.)



特徴 : 樹高 20m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。

萌芽力は強く、自然状態でも多くの萌芽幹を生じて株立ちする。樹皮は滑らかで灰白色。長さ 30 cm を越える大きな葉が枝先に集まって互生する。6 月頃に直径 15 cm ほどの芳香のある白い花が咲き、赤い種子が密集する集果となる。葉は食品の包装や調理に使われ、材は下駄の葉や版木などに用いられる。また、樹皮は漢方薬として利用される。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

中・下段 : 横井秀一

ミズキ (学名 : *Cornus controversa* Hemsl. ex Prain)



特徴 : 樹高 20m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。水辺に多く、水平に枝を広げて階段状の独特の樹形になる。萌芽力は低い。葉は枝先に緩く集まって互生。類縁種のクマノミズキやヤマボウシは対生。6 月頃に白い花が咲き、果実は黒く熟して鳥散布される。材は白色で緻密で、こけしなどに使われる。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

下段 : 横井秀一

クリ (学名 : *Castanea crenata* Siebold et Zucc.)



特徴 : 樹高 17m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。萌芽力は強い。葉はクヌギに似るが鋸歯の先端まで葉緑素が入っていることで区別できる。樹皮は灰褐色で縦に深く割れる。果実を食用にするほか、材は耐久性に優れるため建築材料、家具材、鉄道の枕木などに利用され、樹皮からはタンニンを取る。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

下段 : 横井秀一



クヌギ (学名 : *Quercus acutissima* Carruth.)



特徴 : 樹高 15m になる高木性の落葉樹で、岩手・山形以南の本州から沖縄に分布する。萌芽力は強く、10 年未満の短伐期での薪炭林施業も可能。樹皮は灰褐色で深く割れる。葉はクリに似るが鋸歯先端には葉緑素がない。材は薪炭材として使われ、堅果は家畜の飼料に、樹皮や殻斗はタンニン原料として利用される。

(写真撮影)

勝木俊雄

ケヤキ (学名 : *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino)



特徴：樹高 50m に達する高木性の落葉樹で、本州から九州にかけて分布する。山地や河岸に多い。公園樹や街路樹としても広く植栽される。萌芽力は強い。樹皮は灰褐色で平滑。種子は翼を持たず、葉の付いた小枝ごと風で散布される。材は摩耗に強く、建築、家具、船舶など広く利用される。

(写真撮影)

上段：勝木俊雄

下段：横井秀一

カツラ (学名 : *Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.)



特徴 : 樹高 30m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。水辺を好み、樹皮は灰褐色で縦に割れて短冊状に剥がれる。萌芽力は高く、常に複数の萌芽幹で株を形成する。円形の葉は対生し、紅葉の季節に甘い香りを放つ。材は耐久性が高く、家具、建築、将棋盤などに使われる。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

下段 : 横井秀一

サワグルミ (学名 : *Pterocarya rhoifolia* Siebold et Zucc.)



特徴 : 樹高 30m になる高木性の落葉樹で、北海道から九州まで分布する。攪乱された水辺を好み、主に実生によって更新するが、萌芽力も強い。樹皮は暗灰色だが古くなると剥げて黒褐色。大型の奇数羽状複葉を互生する。花序は穂状に垂れ下がり、翼化した小苞を持った堅果を付ける。材は黄白色で軽く、下駄やマッチの軸として利用される。また、樹皮が屋根材として使われたことがある。

(写真撮影)

上段 : 勝木俊雄

下段 : 横井秀一